

11/19

Tue

個人型 上村 亮（旭ヶ丘中学校）

共同研究者 齊藤忠彦
（信州大学 教授）

子どもたちが「できた！歌えた！」と 実感し、表現を追究できる歌唱授業

「コロナ禍」と呼ばれた約4年間、子どもたちは「歌うこと」や「音楽を表現すること」が制限されました。音楽が社会から不必要なものと判断されたように感じ、私も悲しさと寂しさを抱いたことを覚えています。コロナ禍が明け、ようやく制限なく歌えるようになりましたが、子どもたちは以前のように歌えなくなっていました。今の中学3年生は、小学校高学年でほとんど歌えなかった学年です。小学校での歌唱活動がいかに大切であるか、また、子どもたちに歌う楽しさや喜びを味わってほしいと思いながら、これまで歌唱の授業に取り組んできました。

その中で課題と感ずるのは、授業での活動を通して、子どもたちが本当に「できた！歌えた！」と実感できているのかということです。研究を進める中で、子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し、自身の表現の深まりを自覚するためには、客観的に自分の歌声を振り返ることが必要だと考えました。事前授業の「花の街」（3年歌唱）では、ワークシートを工夫するなどして、クラスの仲間同士で互いに聴き合い、アドバイスをし合う活動を取り入れました。客観的に聴いてもらい、アドバイスをもらうことで、無理な表現ではなく、その子自身がきちんと歌い表せる音楽表現に辿り着く姿や、自信をもって「表現できた」と語る子どもの姿にも繋がり、自己評価に加え、他者からの評価が有用であると感じました。

また、授業を参観いただいた齊藤忠彦先生からは、個別最適な学びに向け、ICTを活用して、自分の歌声を聴き、振り返る方法など、子ども全員が自分の課題と向き合い、「できた！歌えた！」と実感するためのご助言をいただきました。

当日、子どもたちは、カンツォーネの名曲、「帰れソレントへ」の一人歌いに挑戦します。子どもたちが「歌いたい！表現したい！」と必要感をもちながら学習活動に取り組めるよう、教材研究、授業準備を進めていきたいと思っています。



共同研究者 齊藤先生から

個別最適な学びにつながる個々の願いや思い、そしてそれを実現するための協働的な学びの展開を大切にした歌唱の授業づくりをしていただいています。若手でエネルギーに満ち溢れる上村亮先生の授業が楽しみです。



～日程～

- ① 受付 13:00～13:20
- ② 授業公開 13:30～14:20
- ③ 開会行事 14:30～14:40
- ④ 授業研究会 14:40～15:20
- ⑤ 講演会 15:30～16:30
「これからの新しい時代の
音楽教育に求められること」
- ⑥ 閉会行事 16:30～16:40